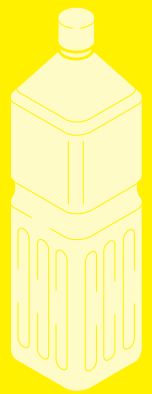
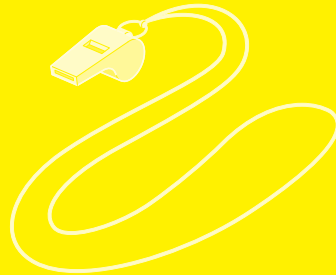
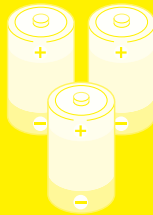
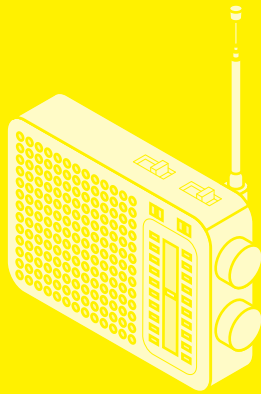
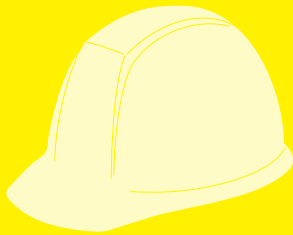


保存版



恩納村 防災マップ



令和 2 年 3 月

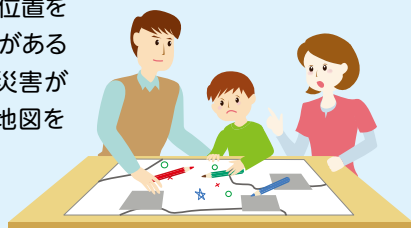
防災マップの使い方と避難

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

防災マップの使い方

まず、自宅の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。

自宅に一番近い災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。



実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



目次

警戒レベルのお知らせ	1
風水害・台風	2
洪水・土砂	3
地震	4
津波・高潮	5
防災対策&チェック	6
非常時持ち出し品の準備&チェック	7
恩納村全体図・避難所・避難場所一覧	8～9
伊武部希望ヶ丘・名嘉真	10～11
名嘉真	12～13
名嘉真・安富祖	14～15
喜瀬武原	16～17

喜瀬武原・安富祖・瀬良垣	18～19
瀬良垣・太田・恩納	20～21
太田・恩納・南恩納	22～23
南恩納	24～25
南恩納・谷茶	26～27
谷茶	28～29
谷茶・富着・前兼久	30～31
富着・前兼久・仲泊	32～33
仲泊・山田	34～35
仲泊・山田・真栄田	36～37
山田・真栄田・塩屋	38～39
塩屋・宇加地	40～41

発行：恩納村 作成：令和2年3月

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平 29 情使、第 444-1486 号)」

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50m メッシュ（標高）を使用した。(承認番号 平 29 情使、第 445-A162 号)」

(禁無断複製)©2020 ZENRIN CO., LTD.

警戒レベルのお知らせ

水害・土砂災害の防災情報の伝え方がわかります

防災情報はいろいろあるけど
いつ避難すればいいの？

逃げ遅れゼロへ

警戒レベル4で全員避難!!

〔警戒レベル〕で避難のタイミングをお伝えします。

2019年の出水期(6月ごろ)より、〔警戒レベル〕を用いた避難情報が発令されます。
市町村から〔警戒レベル3、4〕が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。

警戒レベル1

心構えを高める
(気象庁が発令)

警戒レベル2

避難行動の確認
(気象庁が発令)

警戒レベル3
高齢者等は
避難!

避難に時間を要する人は避難
(市町村が発令)

警戒レベル4
全員避難!

安全な場所へ避難
(市町村が発令)

〔警戒レベル3〕(市町村が発令)は既に災害が発生している状況です。

避難情報と住民のみなさんの行動

避難情報は、災害の種別ごとに避難行動が必要な地域を示して発令します。
村から発令される避難情報の入手方法(村のウェブサイト、防災行政無線)について確認しましょう。
村から発令される避難情報には、以下のものがあります。*

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合

**避難準備・
高齢者等避難開始**

□いつでも避難ができるよう準備をしましょう。
身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。
避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等)は避難を開始しましょう。

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

避難勧告

□避難所・避難場所へ避難をしましょう。
□地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合

避難指示(緊急)

□まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。
□外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。早め早めの行動で、指定避難場所に自主避難をする場合は、村に連絡してください。

命を守るために情報の収集に努めてください

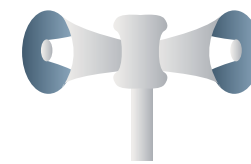
特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



防災無線・広報車

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。



大雨注意報

大雨による土砂災害や
浸水害が発生するおそれ
があると予想される場合

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や
浸水害が発生するおそれ
があると予想される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨
量となる大雨が予想される場合、若しくは、
数十年に一度の強度の台風や同程度の
温帯低気圧により大雨になると
予想される場合に発表

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

(平均風速:m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
		非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 非常時持出品を準備しておく。
- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 危険な地域ではいつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意しておきましょう!



洪水・土砂

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

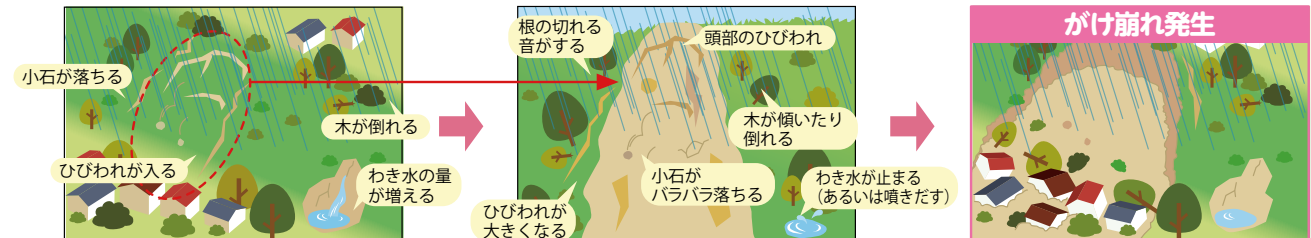


土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1～2分

最初の大きな揺れは約1分間

- ◆ まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- ◆ すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- ◆ 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

揺れがおさまったら

- ◆ 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- ◆ 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- ◆ 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- ◆ 避難するとき、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等へ注意
- ◆ 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- ◆ 隣近所に声をかけよう ◆ 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- ◆ 行方不明者はいないか ◆ ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- ◆ 初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- ◆ 漏電・ガス漏れに注意 ◆ 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ◆ 余震に注意

ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆ 大声で知らせる ◆ 救出・救護を ◆ 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- ◆ デマにまどわされないように ◆ 避難時に車は極力使用しない
- ◆ 電話は緊急連絡を優先する

協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆ 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- ◆ 災害・被害情報の収集 ◆ 無理はやめよう
- ◆ 助け合いの心が大切 ◆ 壊れた家に入らない

家の中

- ◆ 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- ◆ 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆ 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- ◆ 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

集合住宅

- ◆ ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- ◆ カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆ あわてずに冷静な行動をとる。

デパート・スーパー

- ◆ カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

路上

- ◆ その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆ 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆ 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆ 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆ 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- ◆ 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

バスなどの車内

- ◆ つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆ 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆ 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報（大津波、津波）または津波注意報を発表します。

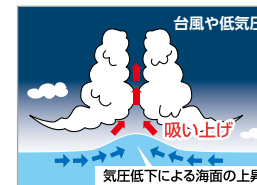
津波警報・注意報の種類

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定されるべき行動と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想高さ)	巨大	陸域に津波が及び浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		10m (5m < 予想高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m 以下の場合。	3m (1m < 予想高さ ≤ 3m)	高い	
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m 以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想高さ ≤ 1m)	(表記しない)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

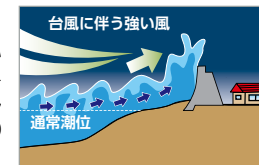
高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流が阻害されます。そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。



吸い上げ効果

台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。気圧が1hPa低下すると海面は1cm上昇します。例えば、950hPaの台風が接近すると、1000hPaだった時より50cm海面が上昇します。



吹き寄せ効果

台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。吹き寄せ効果は風速や海岸の状況により大きく異なり、V字型の湾の奥ほど高くなります。

高潮をもたらす台風の大きさと強さ

台風の「大きさ」は、強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の「強さ」は、最大風速で区分しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

大きさの階級分け

階級	風速 15 m/s 以上の半径
大型(大きい)	500km 以上 800km 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上

強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s 以上 44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上 54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上

高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。

正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。



防災対策 & チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

家の中の安全対策

☐ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

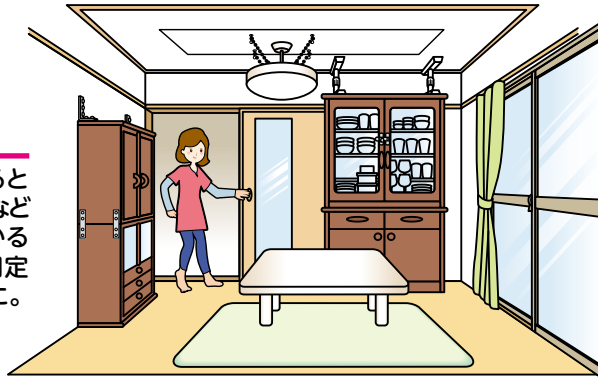
☐ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



☐ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



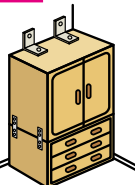
☐ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

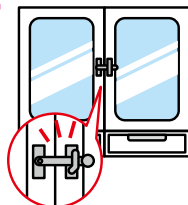
☐ タンス・本棚

L字金具や支柱などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



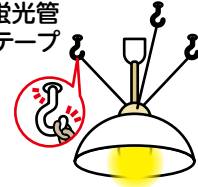
☐ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



☐ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



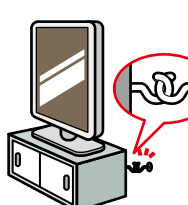
☐ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



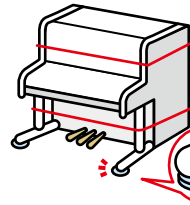
☐ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



☐ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

☐ 屋根

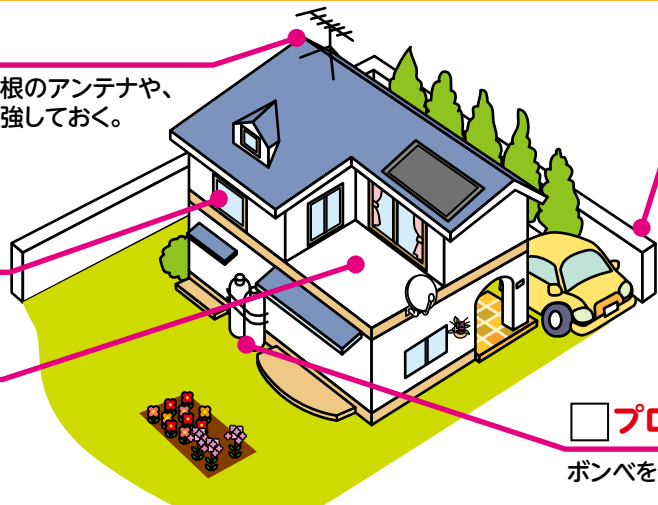
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

☐ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

☐ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



☐ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

☐ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

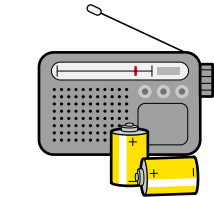
非常時持ち出し品の準備 & チェック

いざというときにすぐに取り出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時持ち出し品(例)

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



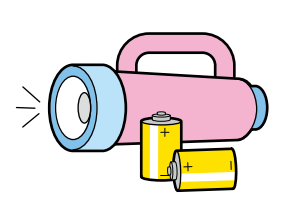
- ☐ 常備薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 傷薬
- ☐ 包帯

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証

懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)



非常食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など

- ☐ 非常用食品
- ☐ 紙皿
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 缶切り
- ☐ 缶詰
- ☐ 紙コップ



その他

- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ 離乳食
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 防災マップ(本書)
- ☐ タオル
- ☐ 乳幼児製品
- ☐ カップ
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水



- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど

非常食品



- ☐ お米(レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他



- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

定期点検!

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

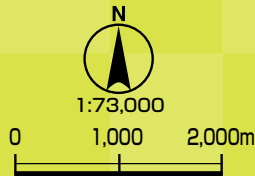
携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さし、筆記用具(マジックなど)スコープなど。

大規模災害で役に立ったもの

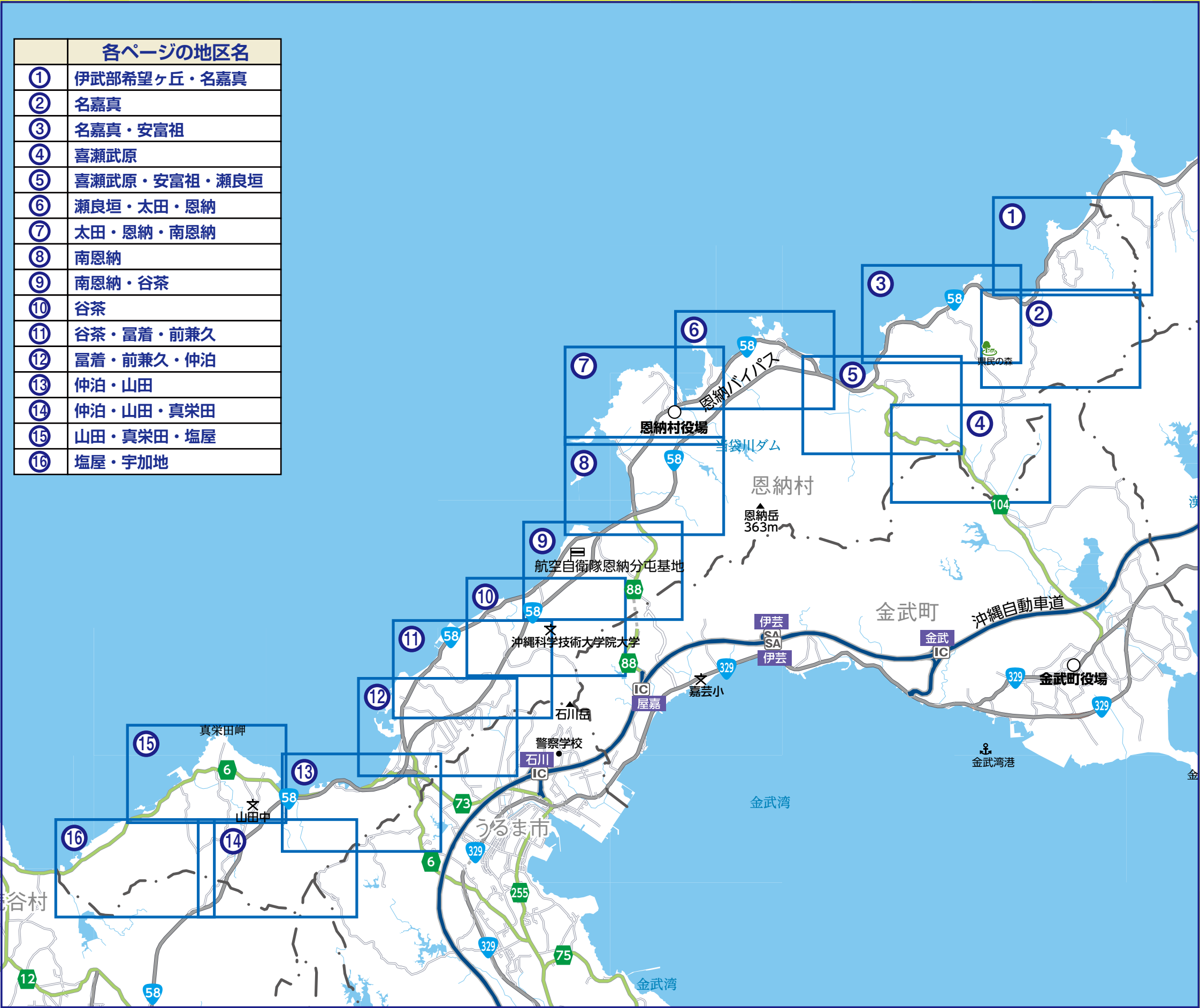
ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコープ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

恩納村全体図



	各ページの地区名
①	伊武部希望ヶ丘・名嘉真
②	名嘉真
③	名嘉真・安富祖
④	喜瀬武原
⑤	喜瀬武原・安富祖・瀬良垣
⑥	瀬良垣・太田・恩納
⑦	太田・恩納・南恩納
⑧	南恩納
⑨	南恩納・谷茶
⑩	谷茶
⑪	谷茶・富着・前兼久
⑫	富着・前兼久・仲泊
⑬	仲泊・山田
⑭	仲泊・山田・真栄田
⑮	山田・真栄田・塩屋
⑯	塩屋・宇加地

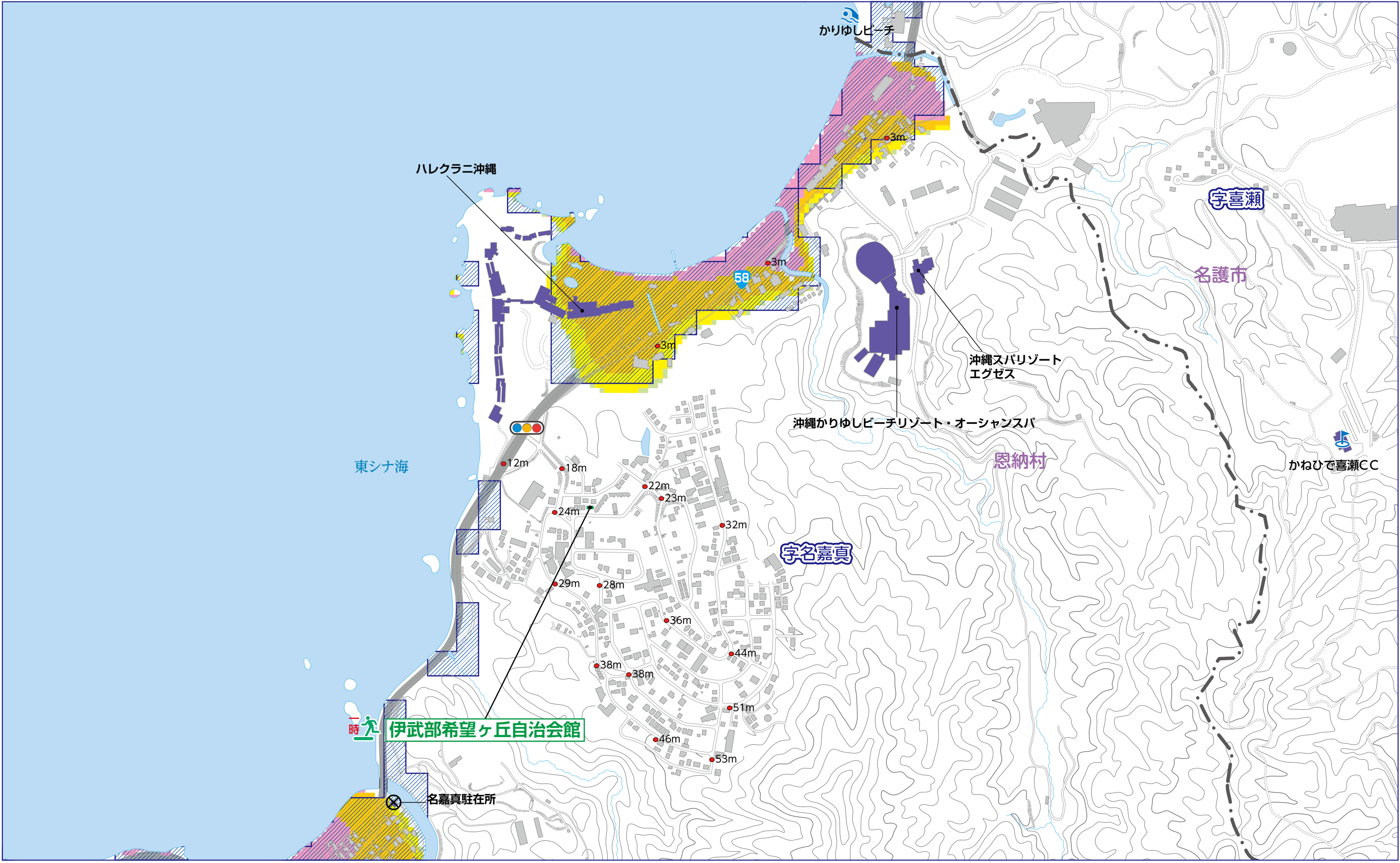
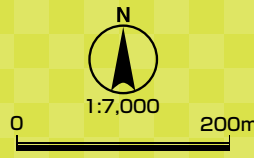


避難場所・避難所一覧

No.	名 称	住所	避難場所		指定避難所	災害種別ごとの避難の適否		
			一時避難場所	指定緊急避難場所		地震津波	土砂	高潮
1	伊武部希望ヶ丘自治会館	名嘉真2288-294	○			○	○	○
2	名嘉真公民館	名嘉真1506		○	○	○	○	○
3	前山高台	名嘉真2708-2	○			○	○	○
4	喜瀬武原公民館	喜瀬武原458-1		○	○	○	○	○
5	喜瀬武原土地改良区水利施設監視センター	喜瀬武原360-1	○			○	○	○
6	喜瀬武原小学校	喜瀬武原458-16		○	○	○	○	○
7	県民の森	安富祖1770			○	○	○	○
8	安富祖団地	安富祖1670-2	○			○	○	○
9	安富祖小学校	安富祖1868-1		○	○		○	
10	赤瀬原避難場所	安富祖1446	○			○	○	○
11	安富祖公民館	安富祖120		○			○	
12	瀬良垣貯水タンク	瀬良垣242-1	○			○	○	○
13	瀬良垣公民館	瀬良垣299		○				
14	ハイアット従業員駐車場付近	恩納961-1	○			○	○	○
15	瀬良垣土地改良区記念碑	瀬良垣1428	○			○	○	○
16	太田公民館	瀬良垣2517		○			○	
17	サファイト 付近	恩納372-2	○			○	○	○
18	まんざ公園	恩納2878	○			○	○	○
19	恩納公民館	恩納2524		○	○	○	○	○
20	恩納村役場	恩納2451		○	○	○	○	○
21	恩納幼小学校	恩納6069-1		○	○		○	
22	学校給食センター	恩納6251-2	○			○	○	○
23	総合保健福祉センター	恩納6302		○	○	○	○	○
24	南恩納公民館	恩納6325		○		○	○	○
25	うんな中学校	恩納7409-1		○	○	○	○	○
26	赤間総合運動公園	恩納7441		○	○	○	○	○
27	沖縄科学技術大学院大学	谷茶1919-4		○		○	○	○
28	谷茶公民館	谷茶1141-1		○		○		○
29	富着公民館	富着879		○	○	○	○	○
30	拝所	富着671-1	○			○	○	○
31	前兼久公民館	前兼久116-1		○			○	
32	前兼久団地	前兼久299	○			○	○	○
33	仲泊小学校	仲泊433		○	○		○	
34	浜元商店裏高台	仲泊1190-2	○			○	○	○
35	仲泊公園	仲泊1411-88	○			○	○	○
36	山田幼小学校	山田997		○	○	○	○	○
37	山田公民館	山田2698		○			○	○
38	真栄田公民館	真栄田47		○		○	○	○
39	簡易水道タンク	真栄田1772-1	○			○	○	○
40	塩屋公民館	真栄田1510		○			○	
41	真栄田ポンプ場	真栄田2342-6	○			○	○	○
42	宇加地公民館	真栄田3056-1		○			○	
43	宇加地防災倉庫	真栄田3601-19	○			○	○	

凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
				大字界				大字界

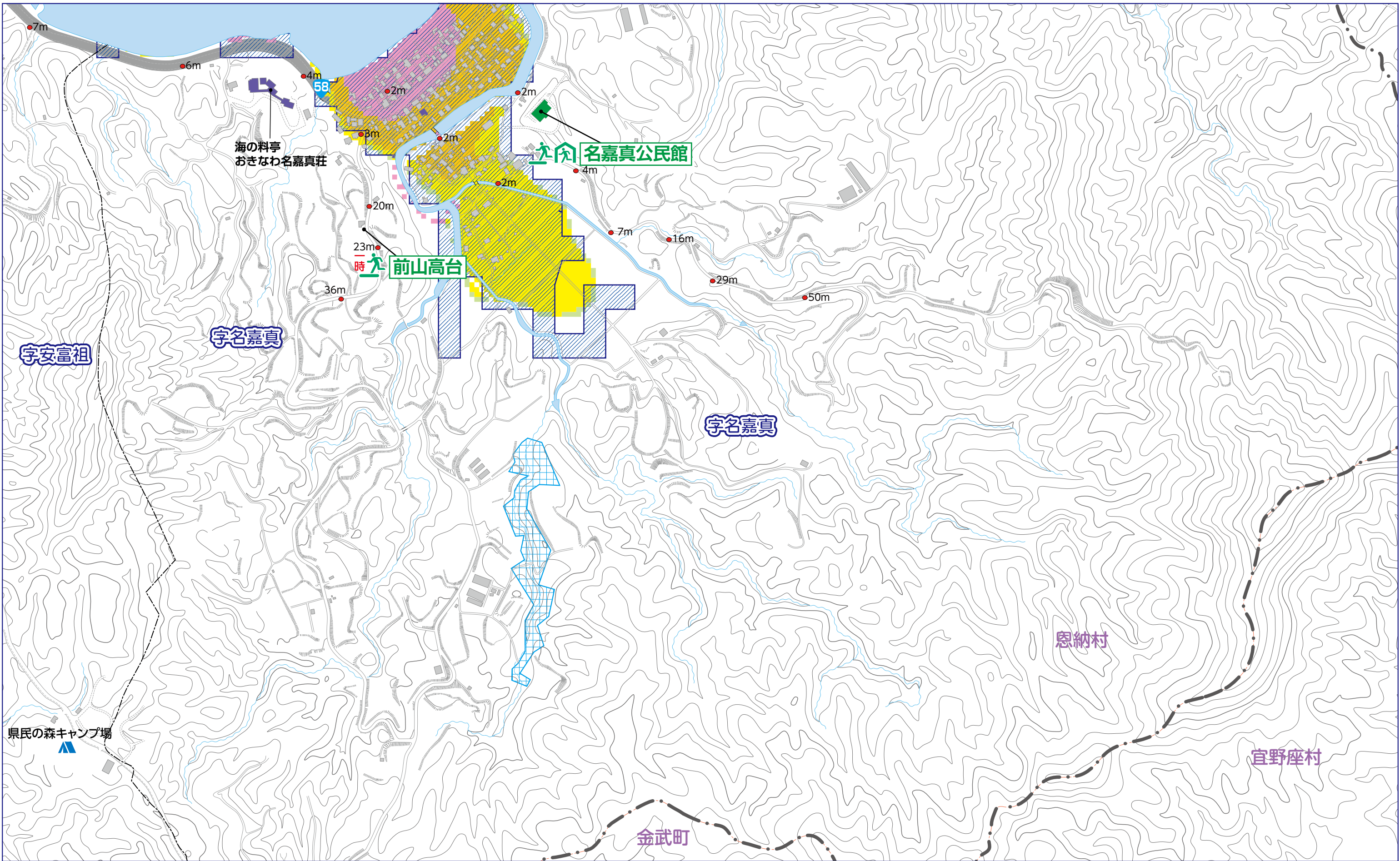
高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域		0.01m以上0.3m未満	土砂災害の 危険がある場所		土石流危険渓流箇所	土砂災害 危険区域		急傾斜地		土石流
				0.3m以上1.0m未満			急傾斜地崩壊危険箇所			特別警戒区域		警戒区域
				1.0m以上2.0m未満			砂防指定地			警戒区域		警戒区域
				2.0m以上5.0m未満								
				5.0m以上10.0m未満								



2 名嘉真

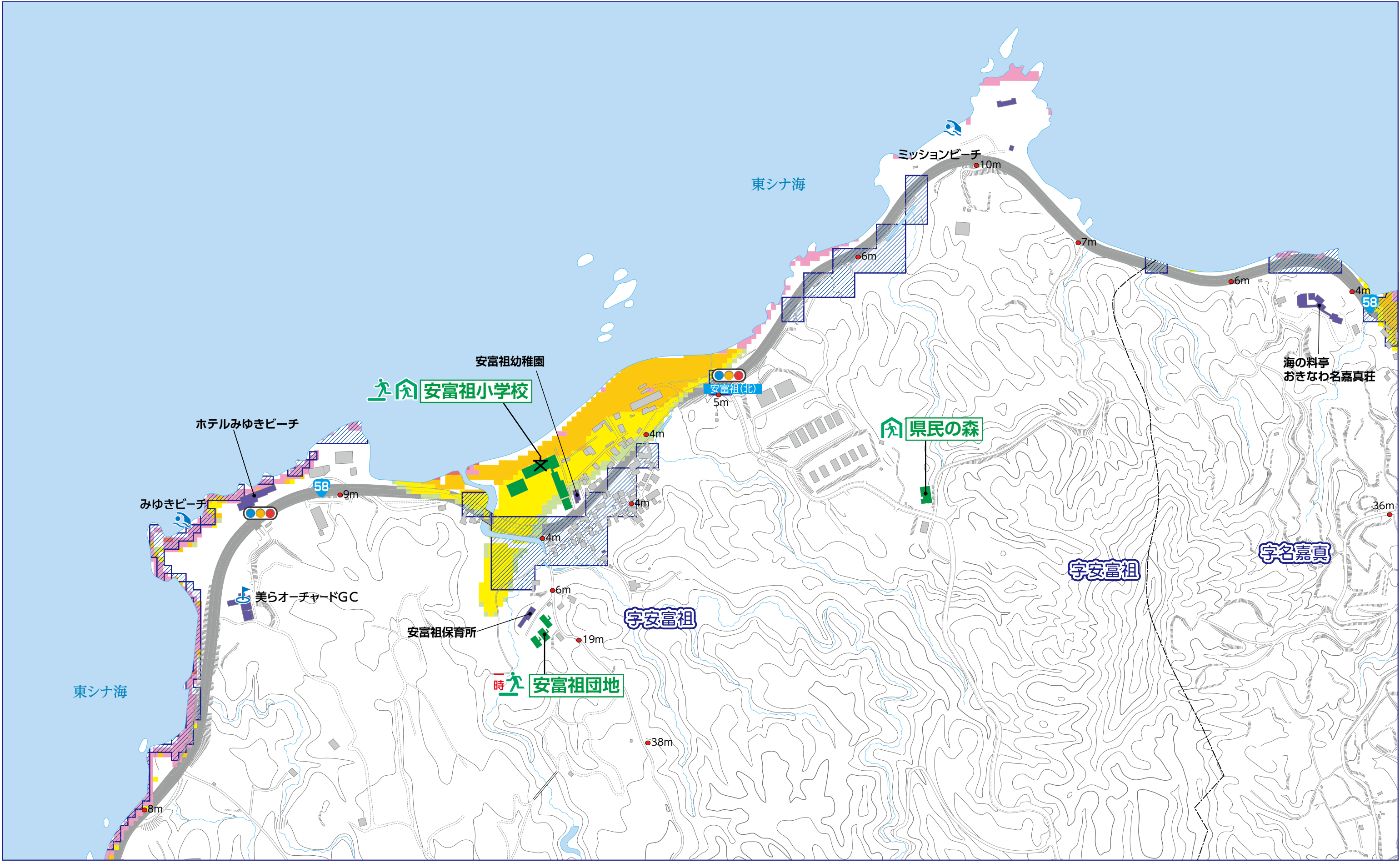
凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域	 0.01m以上0.3m未満 0.3m以上1.0m未満 1.0m以上2.0m未満 2.0m以上5.0m未満 5.0m以上10.0m未満	土砂災害の 危険がある場所	 土石流危険渓流箇所 急傾斜地崩壊危険箇所 砂防指定地	土砂災害 危険区域	 急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域	土石流 警戒区域	 0 1:7,000 200m



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
				大字界				大字界

高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域	 0.01m以上0.3m未満 0.3m以上1.0m未満 1.0m以上2.0m未満 2.0m以上5.0m未満 5.0m以上10.0m未満	土砂災害の 危険がある場所	 土石流危険渓流箇所 急傾斜地崩壊危険箇所 砂防指定地	土砂災害 危険区域	急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域	土石流 警戒区域	N 1:7,000 0 200m



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮
浸水想定区域

津波災害
警戒区域

土砂災害の
危険がある場所

土砂災害
危険区域

急傾斜地
土石流

急傾斜地
特別警戒区域
警戒区域

土石流
警戒区域

	0.01m以上0.3m未満
	0.3m以上1.0m未満
	1.0m以上2.0m未満
	2.0m以上5.0m未満
	5.0m以上10.0m未満

洪水浸水想定区域

土石流危険渓流箇所

急傾斜地崩壊危険箇所

砂防指定地

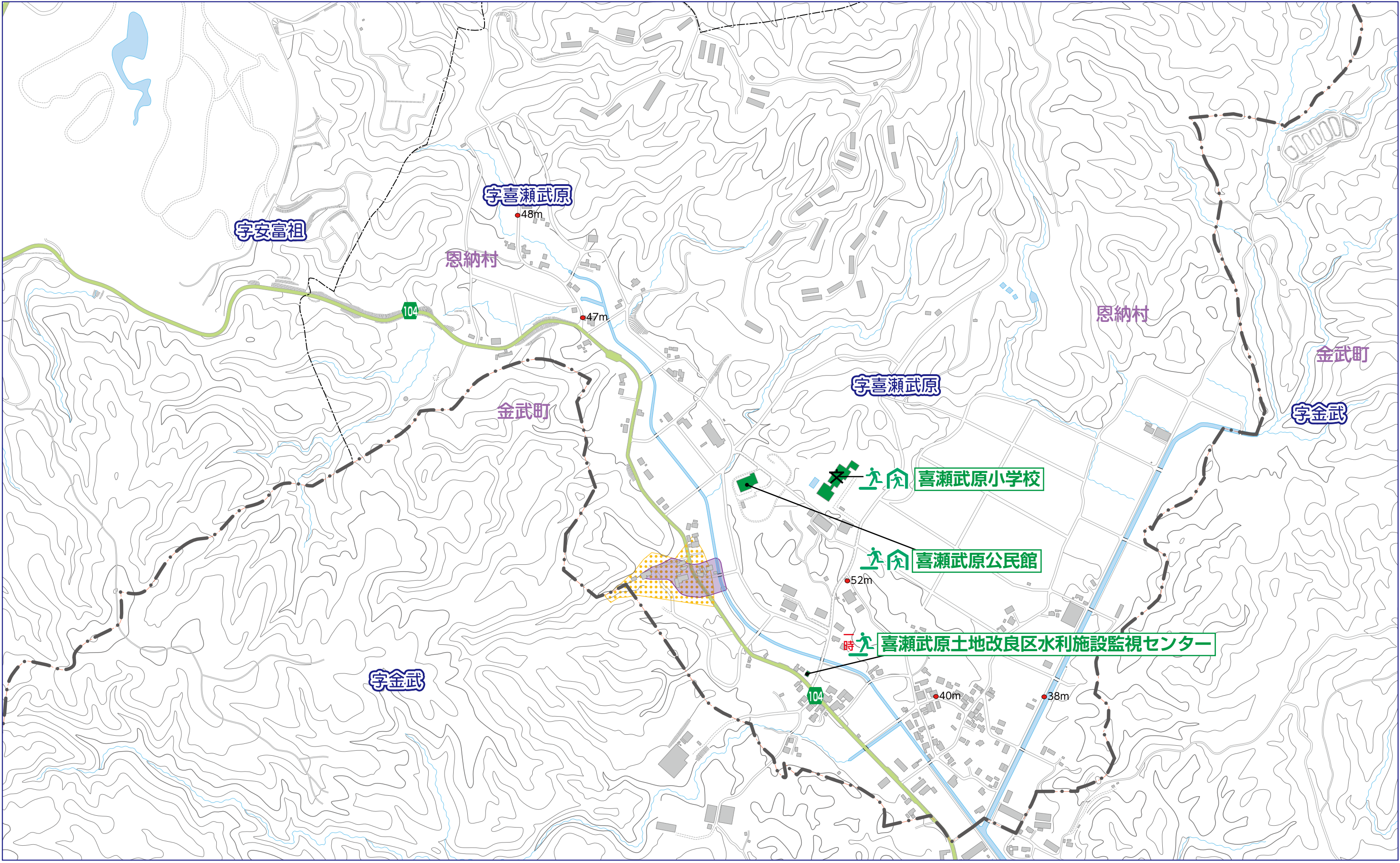
急傾斜地

特別警戒区域

警戒区域

土石流

警戒区域



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
				警察署		ビーチ		大字界

高潮
浸水想定区域

洪水浸水想定区域

津波災害
警戒区域

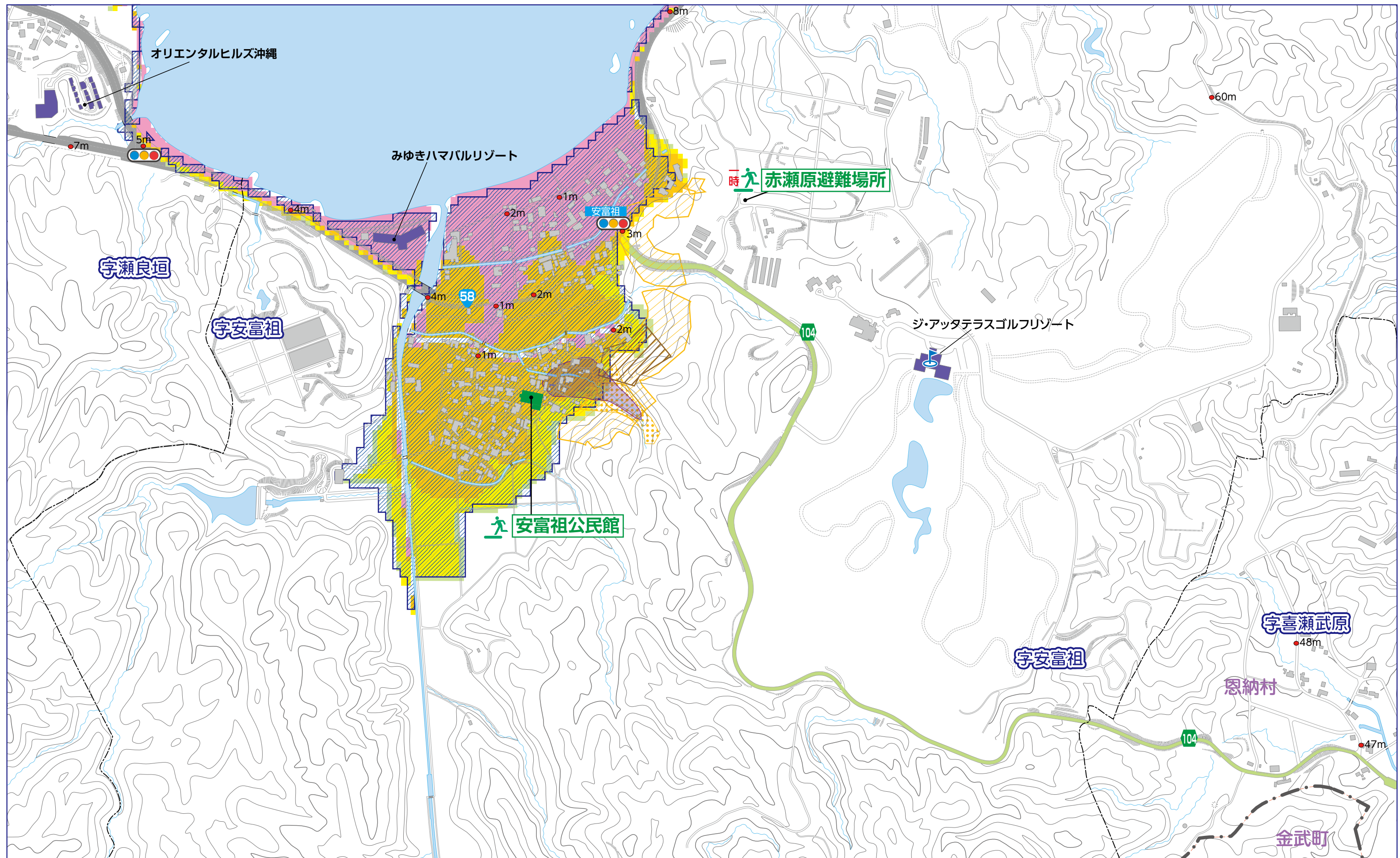
	0.01m以上0.3m未満
	0.3m以上1.0m未満
	1.0m以上2.0m未満
	2.0m以上5.0m未満
	5.0m以上10.0m未満

土砂災害の
危険がある場所

	土石流危険渓流箇所
	急傾斜地崩壊危険箇所
	砂防指定地

土砂災害
危険区域

	急傾斜地
	特別警戒区域
	警戒区域
	警戒区域
	土石流
	警戒区域



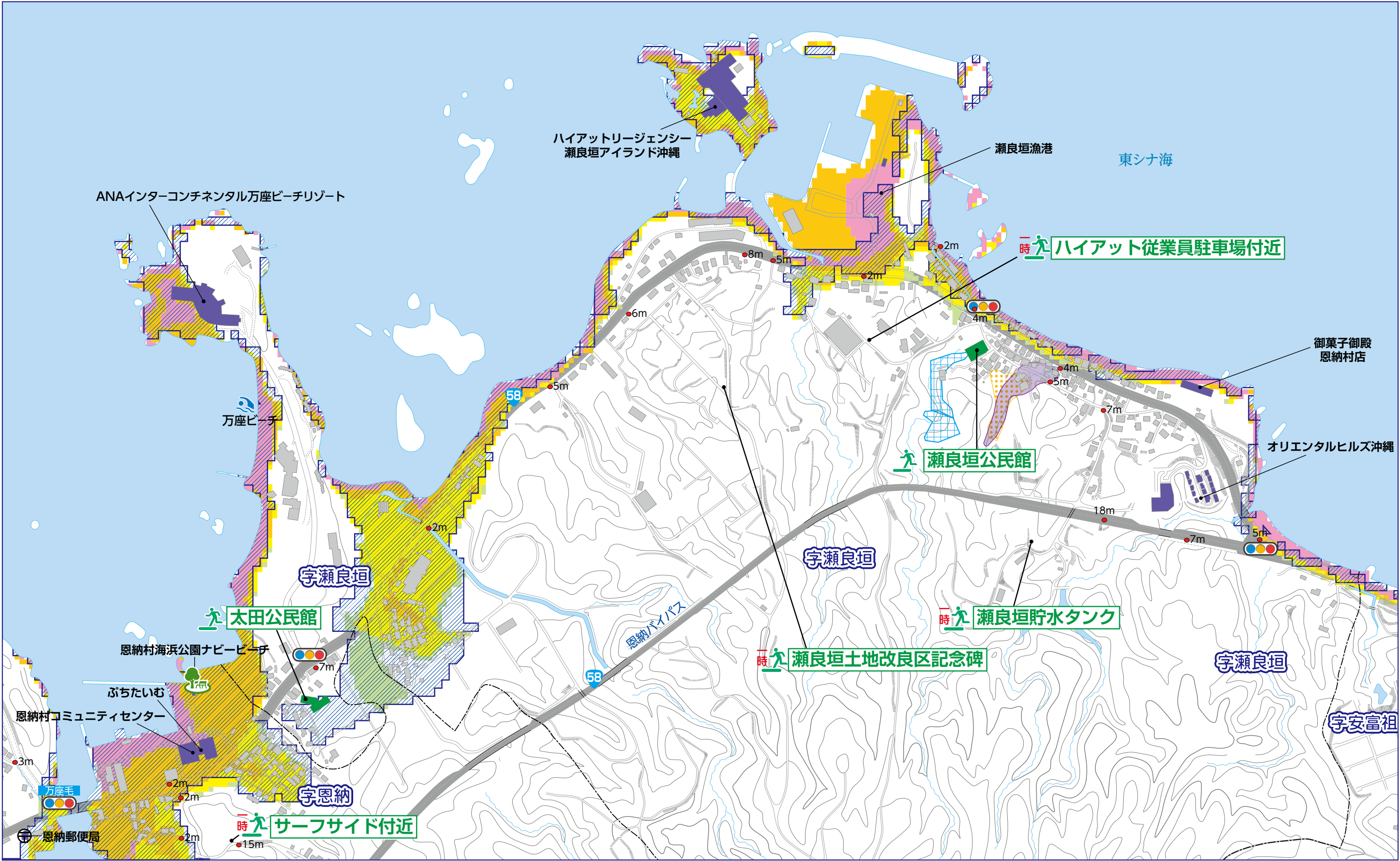
凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域	0.01m以上0.3m未満 0.3m以上1.0m未満 1.0m以上2.0m未満 2.0m以上5.0m未満 5.0m以上10.0m未満	土砂災害の危険がある場所 土流危険渓流箇所 急傾斜地崩壊危険箇所 砂防指定地	土砂災害危険区域 急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域	土石流 警戒区域

0

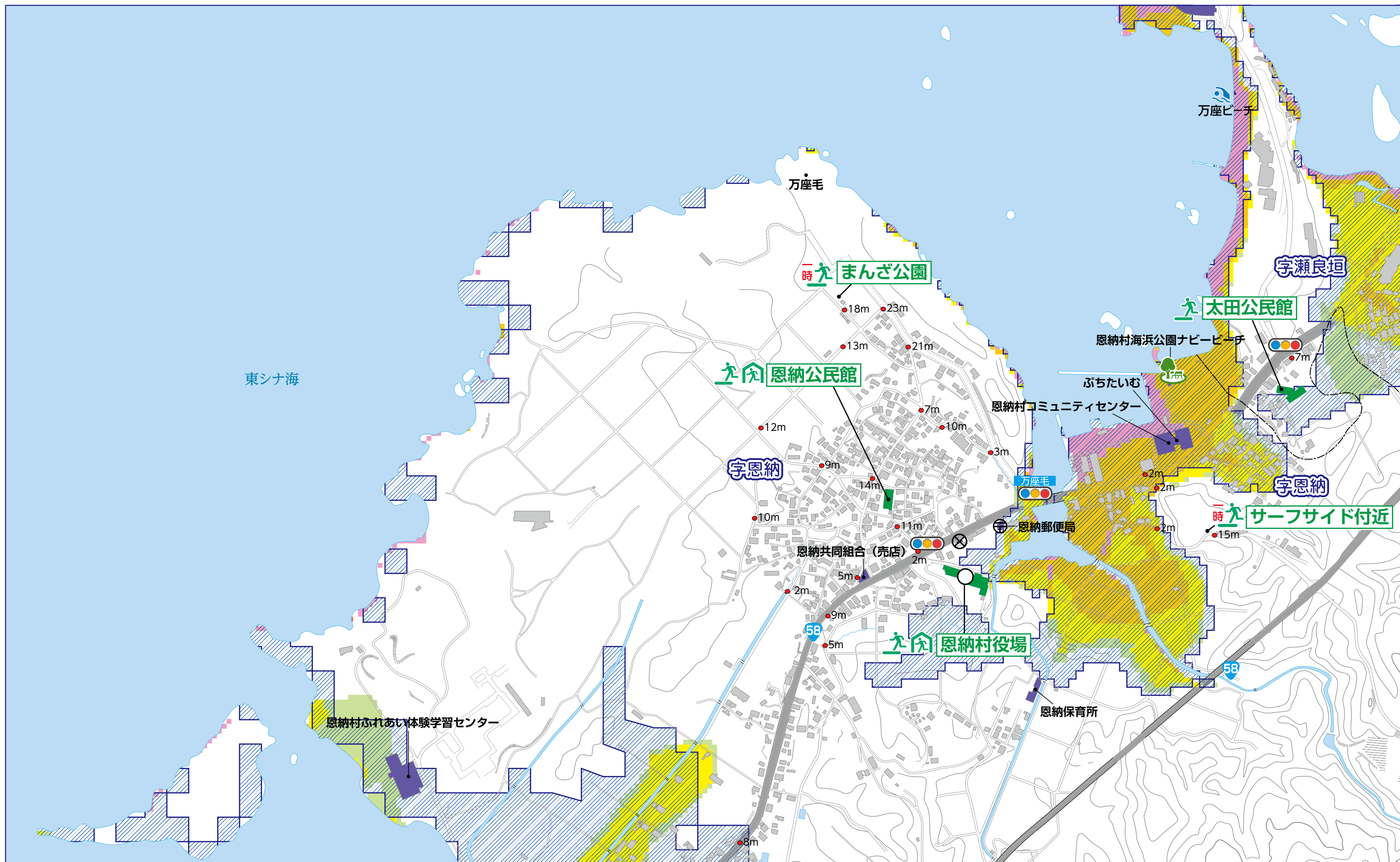
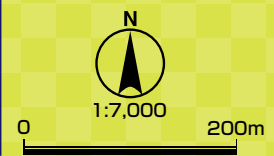
1:7,000

200m



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

浸水想定区域 高潮	 洪水浸水想定区域	津波災害 警戒区域	0.01m以上0.3m未満	土砂災害の 危険がある場所	 土石流危険渓流箇所	危険区域 土砂災害	急傾斜地	土石流
			0.3m以上1.0m未満		 急傾斜地崩壊危険箇所		 特別警戒区域	 警戒区域
			1.0m以上2.0m未満		 砂防指定地		 警戒区域	
			2.0m以上5.0m未満					
			5.0m以上10.0m未満					



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
		一時避難場所		警察署		ビーチ		大字界

高潮
浸水想定区域

津波災害警戒区域

0.01m以上0.3m未満
0.3m以上1.0m未満
1.0m以上2.0m未満
2.0m以上5.0m未満
5.0m以上10.0m未満

土砂災害の
危険がある場所

- 土石流危險溪流箇所
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 砂防指定地

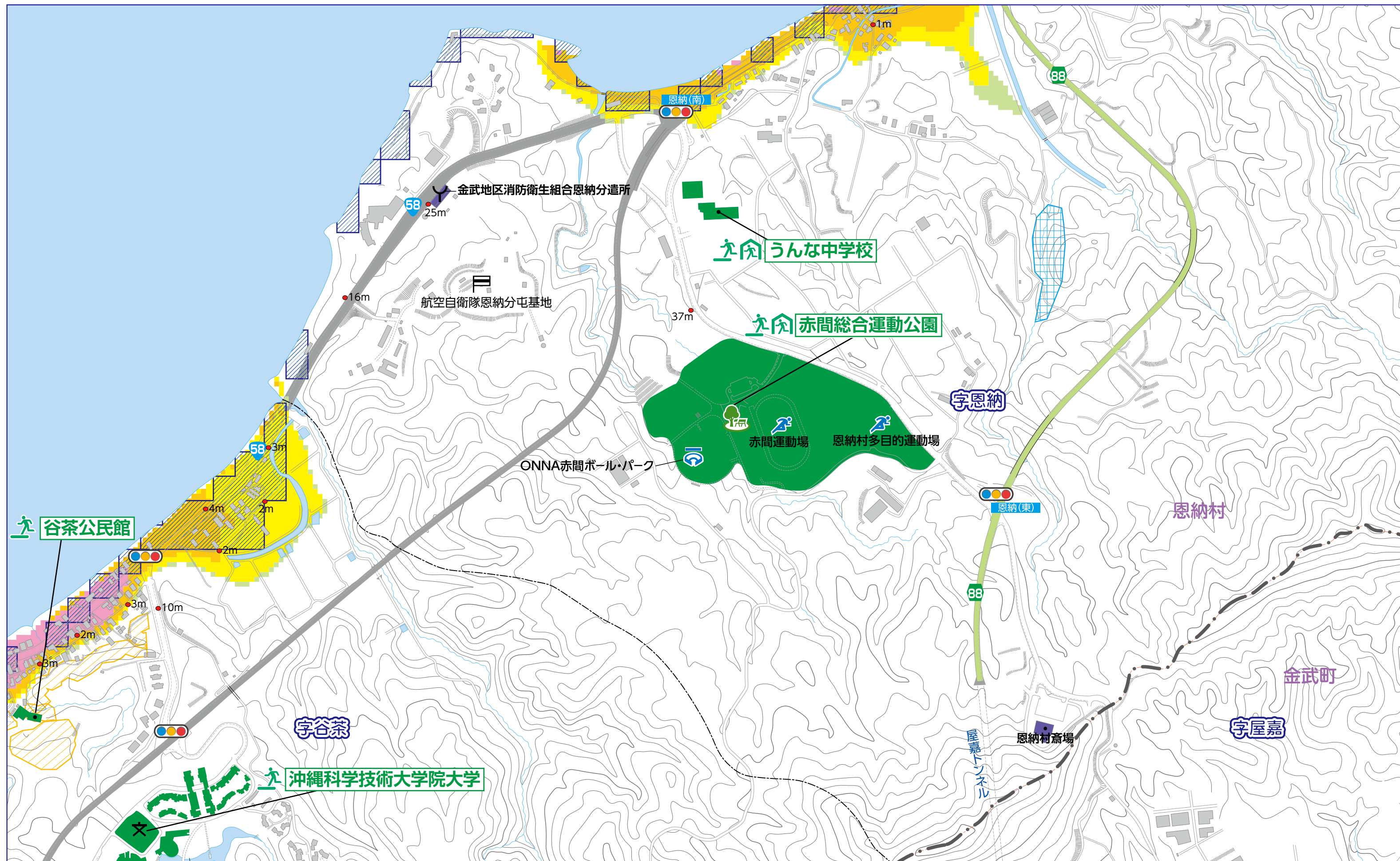
土砂災害
危険区域

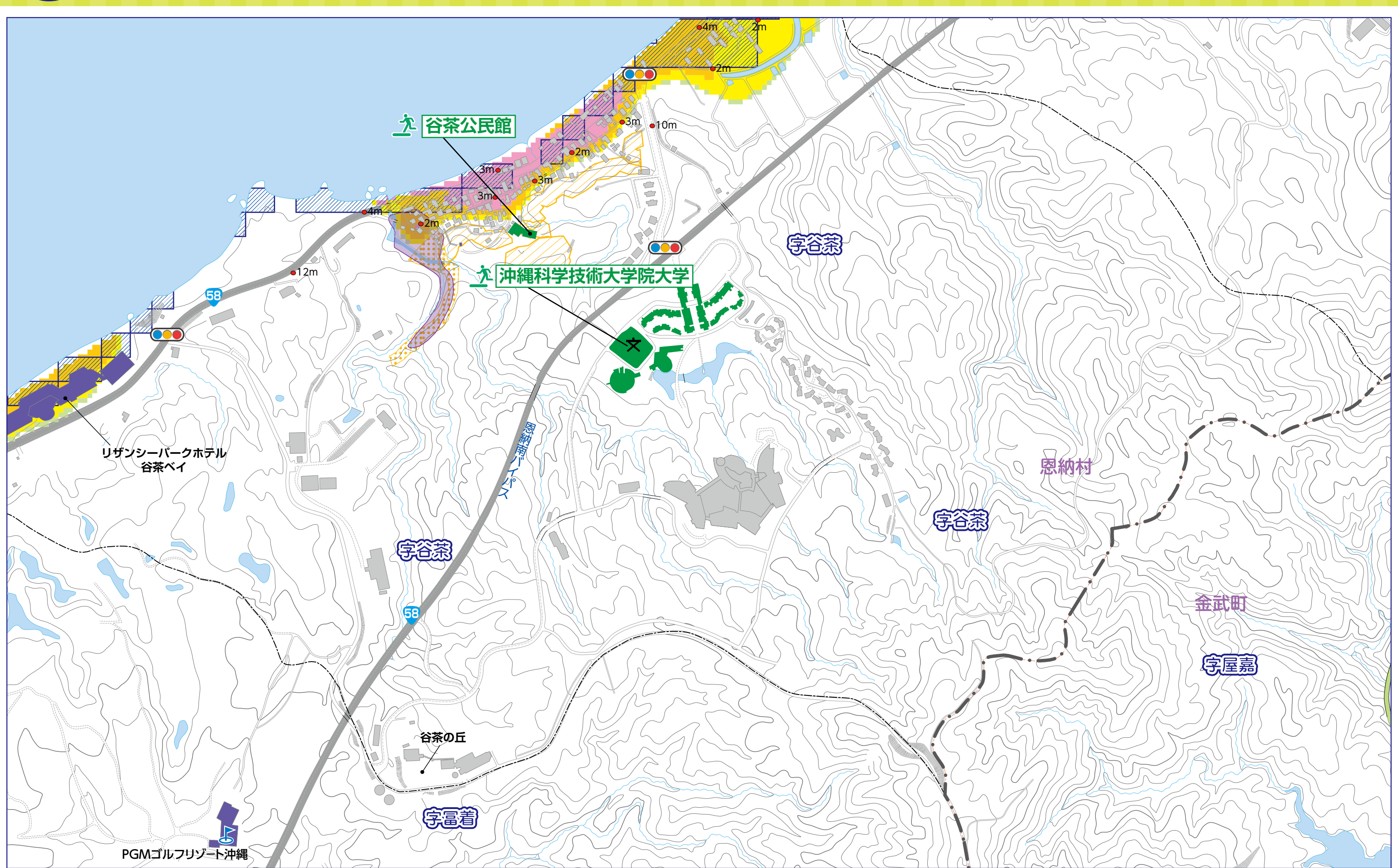
急傾斜地

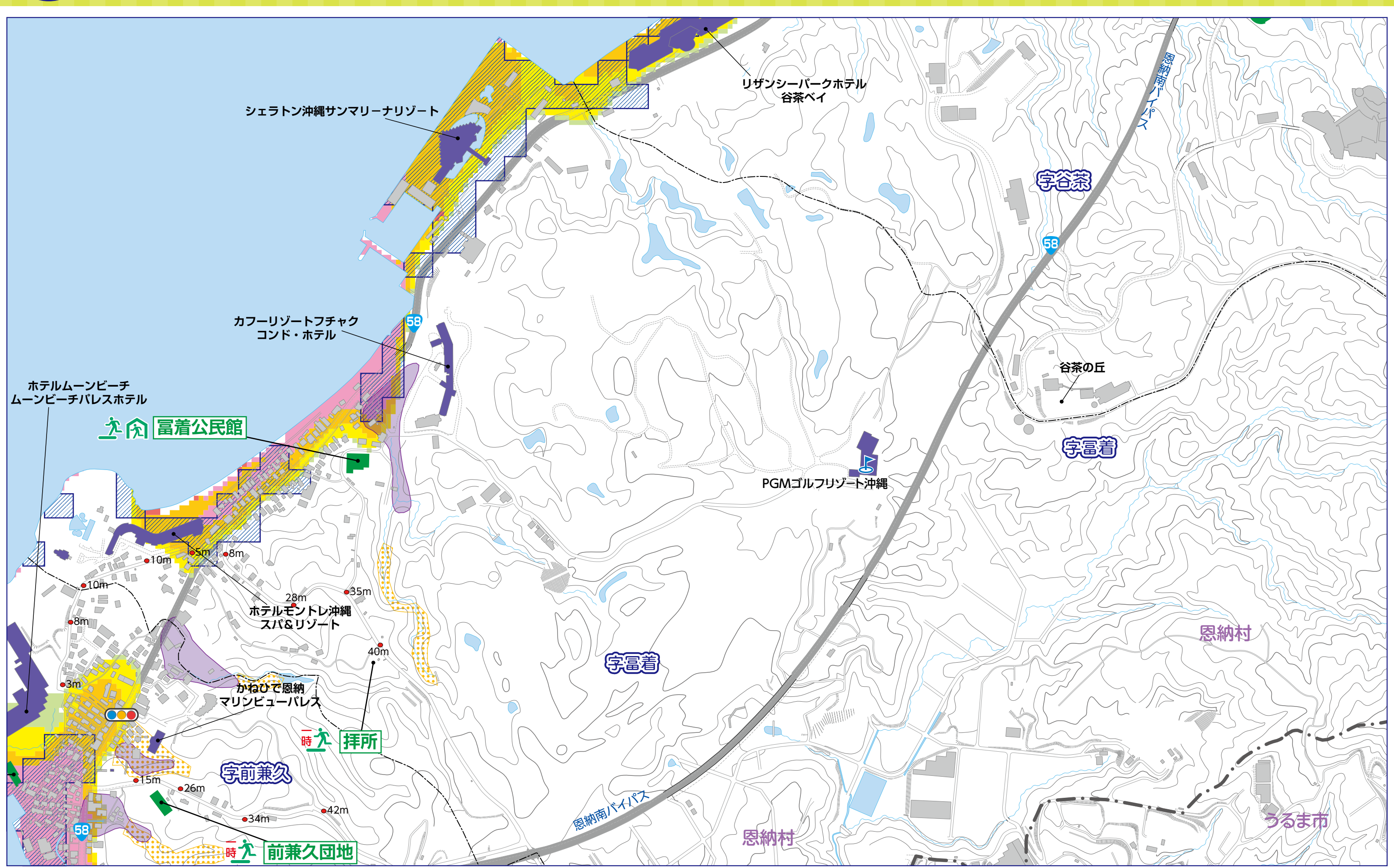
特別警戒区域

警戒区域

土石流
警戒区域







凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
				警察署		ビーチ		大字界

高潮
浸水想定区域

洪水浸水想定区域

津波災害
警戒区域

0.01m以上0.3m未満
0.3m以上1.0m未満
1.0m以上2.0m未満
2.0m以上5.0m未満
5.0m以上10.0m未満

土砂災害
危険がある場所

土石流危険渓流箇所
急傾斜地崩壊危険箇所
砂防指定地

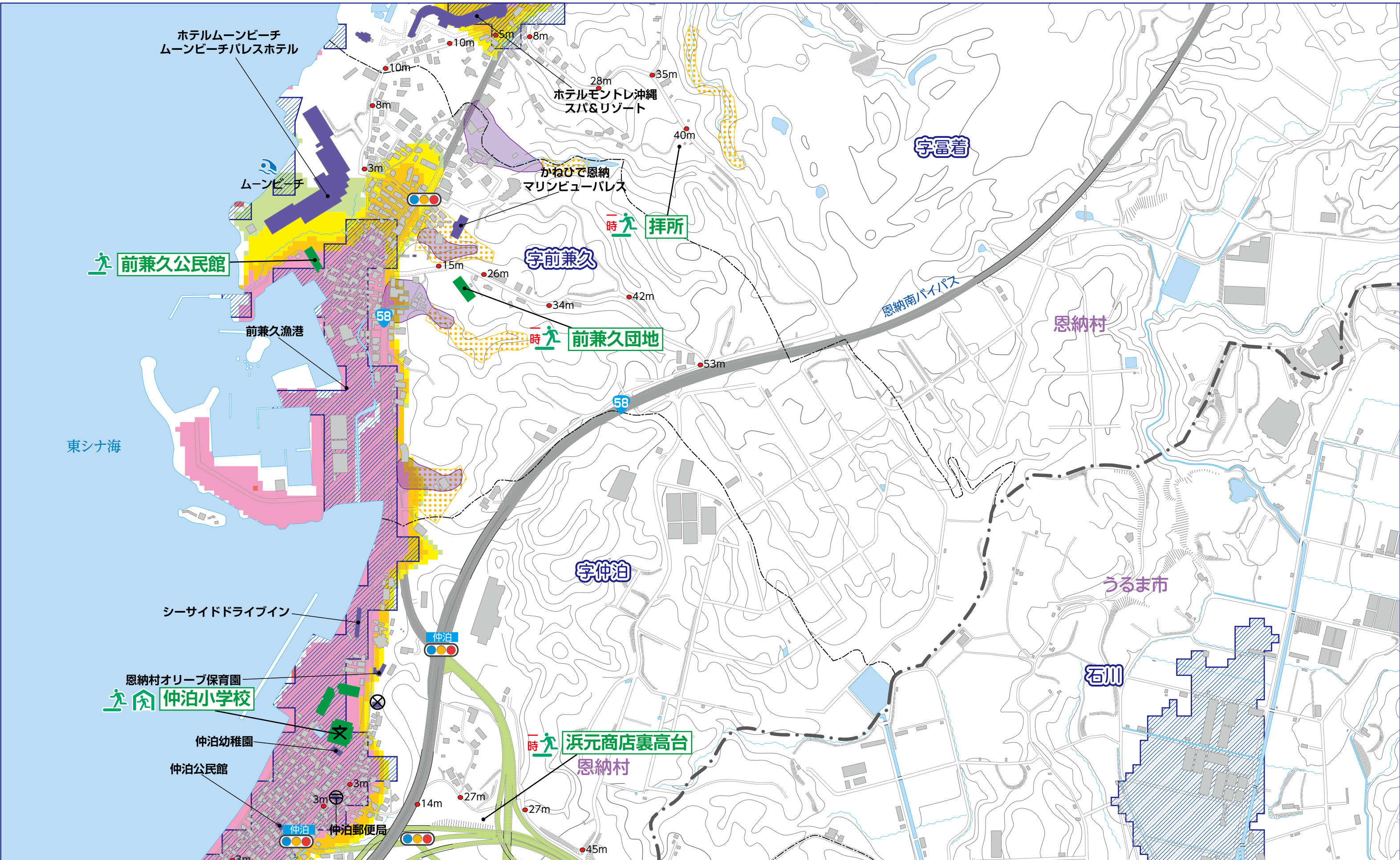
土砂災害
危険区域

急傾斜地
特別警戒区域
警戒区域

土石流
警戒区域

0 1:7,000 200m

N



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮
浸水想定区域

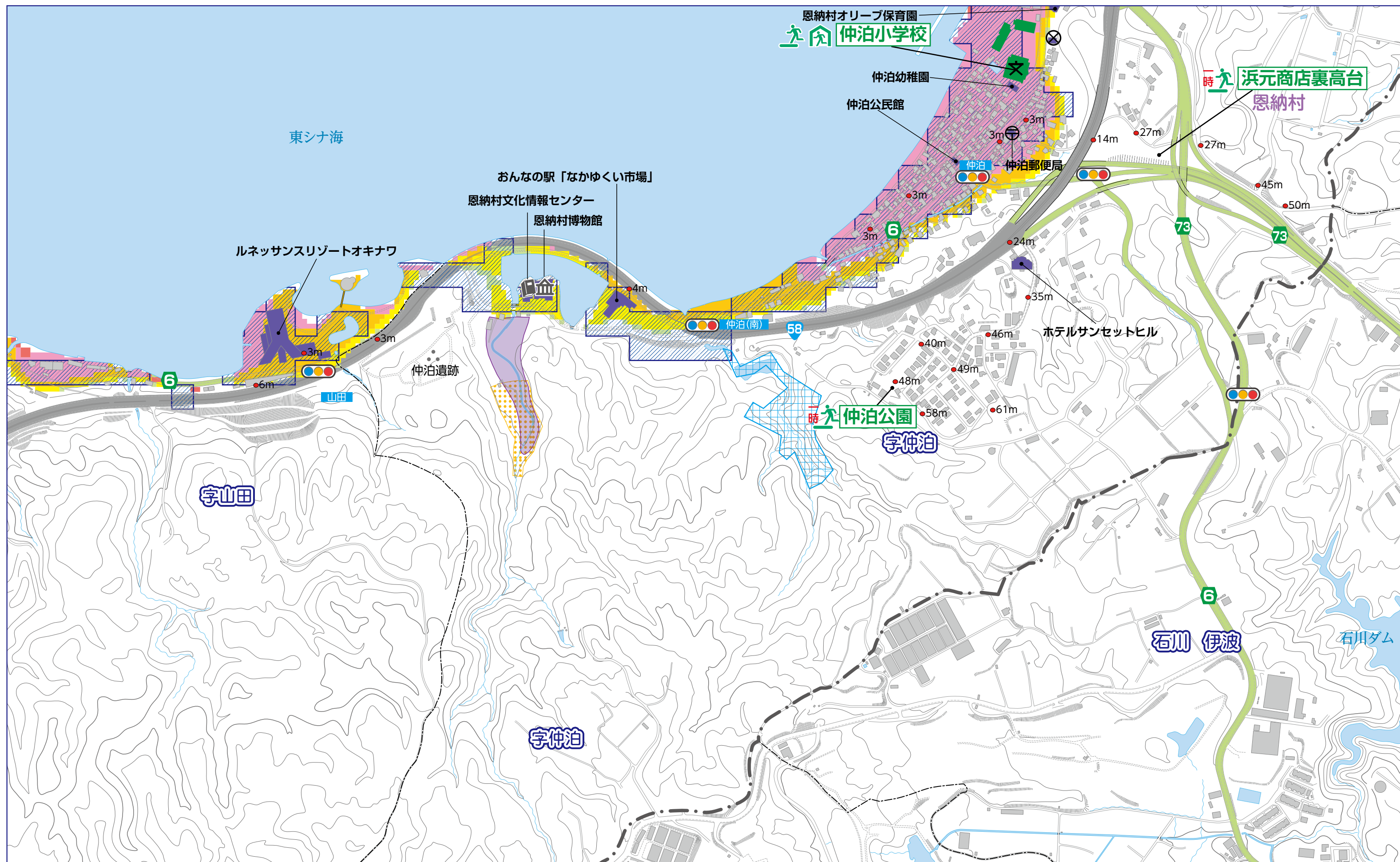


洪水浸水想定区域

津波災害警戒区域	0.01m以上0.3m未満	0.3m以上1.0m未満	1.0m以上2.0m未満	2.0m以上5.0m未満	5.0m以上10.0m未満
----------	---------------	--------------	--------------	--------------	---------------

- 土砂災害の危険がある場所
- 土石流危険渓流箇所
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 砂防指定地

土砂災害 危険区域	急傾斜地	土石流
	 特別警戒区域	 警戒区域
	 警戒区域	



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
				大字界				大字界

高潮
浸水想定区域

洪水浸水想定区域

津波災害
警戒区域

0.01m以上0.3m未満
0.3m以上1.0m未満
1.0m以上2.0m未満
2.0m以上5.0m未満
5.0m以上10.0m未満

土砂災害の
危険がある場所

土砂流危険渓流箇所
急傾斜地崩壊危険箇所
砂防指定地

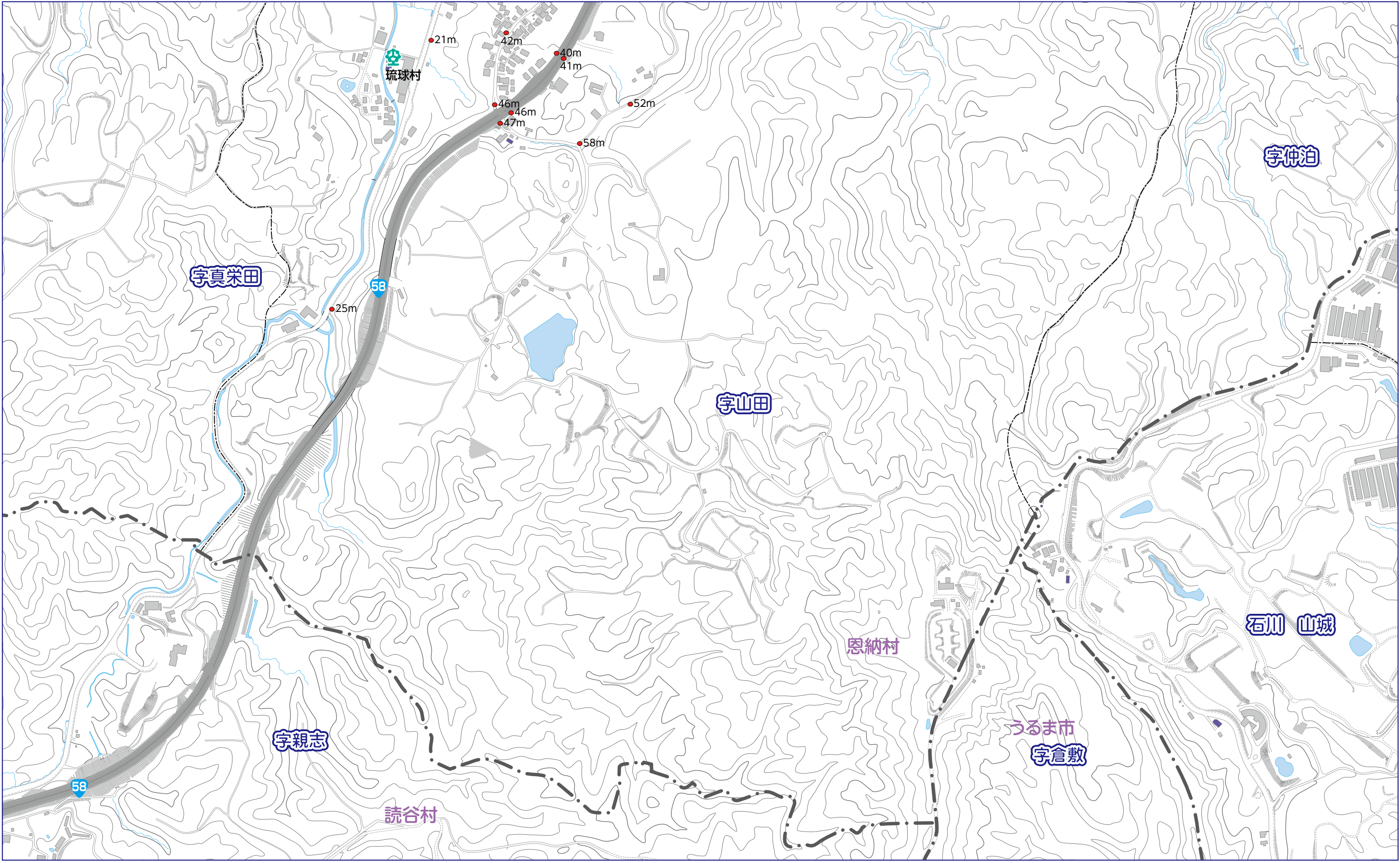
土砂災害
危険区域

急傾斜地
特別警戒区域
警戒区域

土石流

警戒区域

0 1:7,000 200m

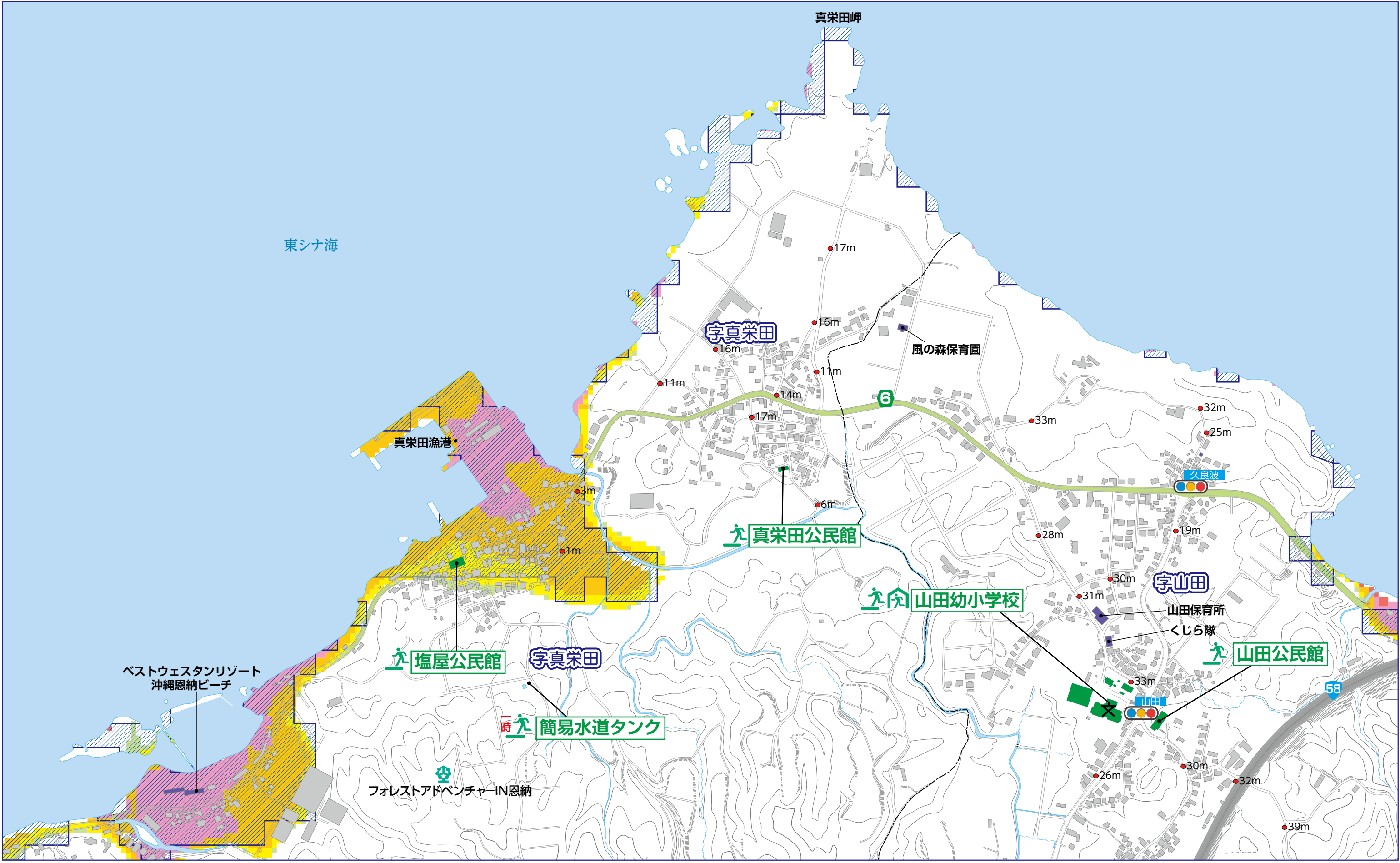


凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域	 0.01m以上0.3m未満 0.3m以上1.0m未満 1.0m以上2.0m未満 2.0m以上5.0m未満 5.0m以上10.0m未満	土砂災害の 危険がある場所	 土砂流危険渓流箇所 急傾斜地崩壊危険箇所 砂防指定地	土砂災害 危険区域	 急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域	土石流 警戒区域	 警戒区域

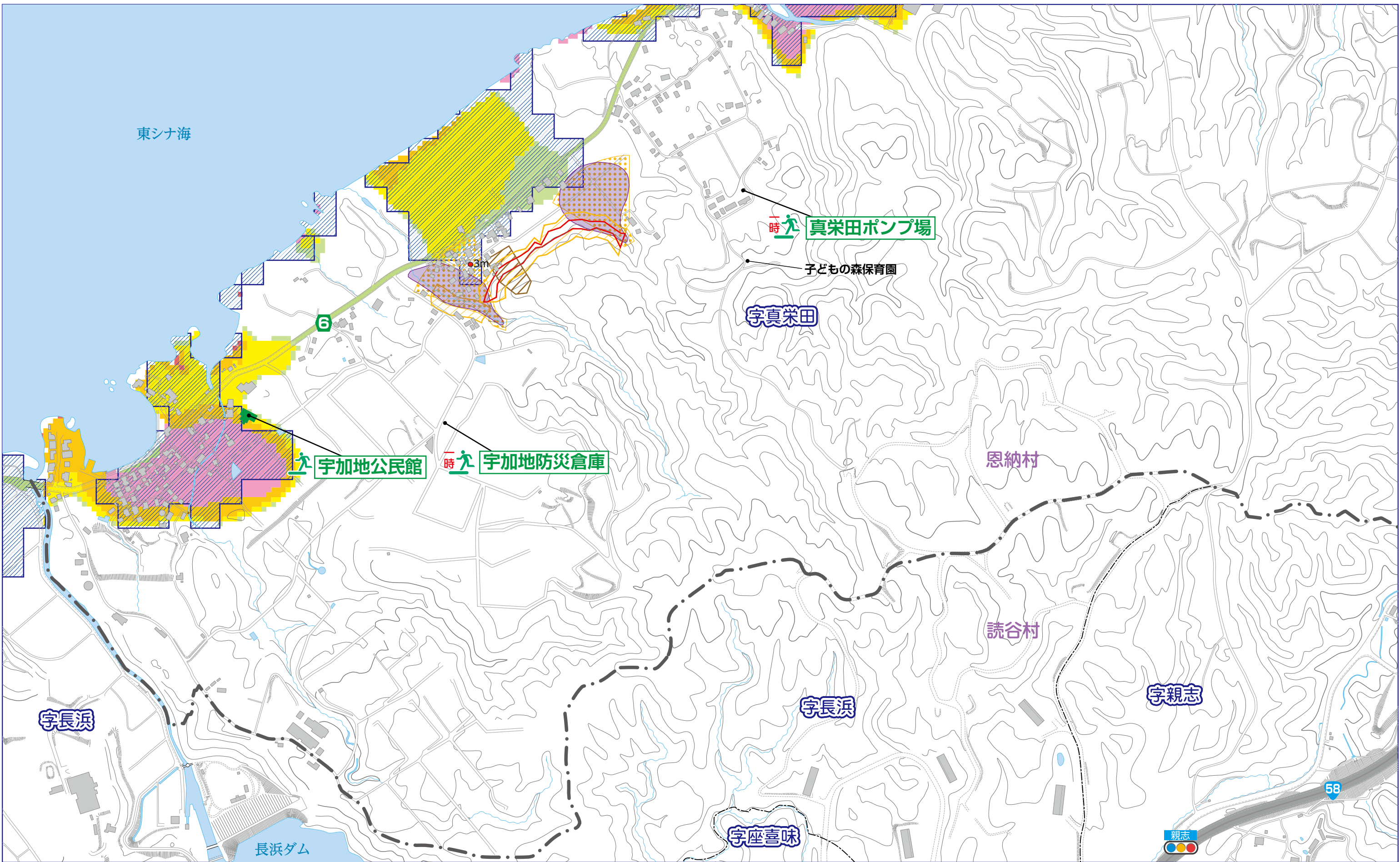
0 1:7,000 200m

N



凡例		指定緊急避難場所		村役場		学校		国道
		指定避難所		消防署		郵便局		県道・主要道
		一時避難場所		警察署		ビーチ		市町村界
								大字界

高潮 浸水想定区域		津波災害 警戒区域	 0.01m以上0.3m未満 0.3m以上1.0m未満 1.0m以上2.0m未満 2.0m以上5.0m未満 5.0m以上10.0m未満	土砂災害の 危険がある場所	 土石流危険渓流箇所 急傾斜地崩壊危険箇所 砂防指定地	土砂災害 危険区域	急傾斜地 特別警戒区域 警戒区域	土石流 警戒区域



防災メモ

家族の連絡先

氏 名	生年月日	血液型	電話(会社・学校)	住 所	メモ

親戚・知人の連絡先

氏 名	電 話	住 所	メモ(家族との関係など)

避難所

避難所	
家族の集合場所	

災害時の連絡方法を覚えておきましょう

電話が混み合う災害時に、家族や支援者との安否確認に役立つのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」や携帯電話各社の「災害用伝言板」です。震度6以上の地震などの大規模災害時に稼働します。

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方 ※音声案内が流れるので、それに従って落ち着いて利用しましょう。

伝言の録音方法 171 ▶ 1 ▶ 被災地の人の電話番号(市外局番から) ▶ 伝言を吹き込む

伝言の再生方法 171 ▶ 2 ▶ 被災地の人の電話番号(市外局番から) ▶ 伝言を聞く

「災害用伝言ダイヤル171」サービスを体験できます。(毎月1日、他)
◎詳しくはNTT及び携帯電話会社にお問い合わせ下さい。
◎実際に災害が発生した際には体験サービスの利用ができない場合があります。

緊急時の連絡先

消防・救急は**119**番

警察は**110**番

名 称	電 話 番 号
恩納村役場 総務課	098-966-1200
石川警察署	098-964-4110
金武地区消防衛生組合恩納分遣所	098-966-8118